

平成 26 年度 定時総会 特別講演を開催

平成 26 年 5 月 29 日 (木) ANA クラウンプラザホテル新潟において、定時総会終了後、特別講演として公益社団法人日本獣医師会の藏内勇夫会長から「獣医師会の目指すべき方向—会員と構成獣医師とともに歩む日本獣医師会に期待を一」と題するご講演をいただきました。

講演では、日本獣医師会の目指すべき方向として会が抱える当面解決すべき 3 つの優先課題 (①緊急災害時の被災動物対策としてのマイクロチップの普及推進、②人と動物の共通感染症対策の整備・充実に係る獣医師と医師の連携推進、③女性獣医師の就業支援及びキャリアアップの推進) を挙げられました。これらについて、従来の方法では解決できなかったことを反省し、新しい手法 (常設委員会並びに個別委員会及び新たに設置する特別委員会) で組織的に活発な論議を展開し、工程表に基づいて迅速に結論を求めることとしていること。

更に、「日本獣医師会」は「地方獣医師会」のために、「地方獣医師会」は「日本獣医師会」を支える表裏一体の関係で共に歩むことが今後においても発展の道筋であることを強調されました。

また、講演の中で新潟県獣医師会について、①国際交流事業 (モンゴル農業大学への支援)、②過去の経験を生かした緊急災害時動物救護対策、③佐渡市のトキ野生復帰事業の取り組み等の特徴的な活動を継続していると紹介いただきました。



講演される日本獣医師会の藏内勇夫会長

平成 26 年度 産業動物部会 講習会を開催

平成 26 年 6 月 11 日 (水) 新潟市の新潟ユニゾンプラザで定時総会終了後、講習会が開催されました。

講習内容は千葉農業共済組合連合会東部家畜診療所夷隅出張所佐藤真由美先生から「わかっているけどやらない酪農家のやる気を引き出す戦略ーその時、酪農家は動いた！ー」と題するご講演をいただきました。

講演では、担当農場の中で黄色ブドウ球菌（S A）陽性牛比率が高く、経営に問題のある農場に対する経営改善のための取り組み（①畜主に行動させる、②畜主の意識変化、③畜主が自主的に行動する）を実践した事例が紹介された。取り組みの中では、S A陽性牛の並べ替え作業を獣医師自らが畜主と一緒にいったこと、搾乳方法及び給餌量の正確な計量の改善等を畜主に対して、“なぜ変える必要があるのか” “データを目に見える形で示す” ことで理解が得られて一体感が生まれ、信頼関係が深まったことが取り組み成功の要因と推察されました。

講演終了後は活発な質疑応答があり、盛会裏に終了しました。



受講風景



講演される 佐藤真由美先生

平成 26 年度 小動物臨床部会 第 1 回講習会を開催

平成 26 年 6 月 22 日（日）万代シルバーホテルで平成 26 年度第 1 回講習会を開催しました。

小嶋佳彦部会長の挨拶の後、鈴木正芳副部会長の司会進行で講演に入りました。

講師は、岐阜大学応用生物科学部 比較がんセンター 動物病院腫瘍科 獣医分子病態学研究室の丸尾幸嗣教授で、腫瘍学「伴侶動物がん臨床の現状と目指すもの」と題して講演をいただきました。

参加登録者 54 名（部会員 47 名、部会員外 7 名）、当日参加者は 50 名（部会員 43 名、部会員外 7 名）でした。

講演内容は、小動物臨床で日々遭遇する腫瘍疾患について、1 がん臨床の現状/進歩と限界 2 比較腫瘍学 3 がんを知り、がんを減らす の 3 つのテーマで、岐阜大学の現況、化学療法、放射線療法、疫学など、国内のみならず海外の現状も取り入れたものでした。参加者はみな熱心に講演を聞き、その後は活発な質疑が行われました。

また、同会場で小動物臨床部会会員病院におけるコンプライアンスに関するアンケート調査にご協力いただきました。この集計結果につきましては、第 2 回講習会にてご報告させていただく予定です。



講演される 丸尾幸嗣先生



講習会受講風景

平成 26 年度 感染症予防衛生講習会（県民公開講座）を開催

平成 26 年 6 月 25 日(水) 午後 1 時から、新潟市民プラザ（NEXT21 ビル 6 階）で開催されました。この講習会は、(一社)新潟県ペストコントロール協会、新潟県、新潟市の主催、(公社)新潟県獣医師会の共催で、県、市町村、教育関係、福祉施設、食品事業者のほか、一般県民に広く受講していただくため、県民公開講座として約 100 人の方から参加をいただきました。講習会は、お二人の講師から御講演をいただきました。

講演Ⅰでは、(公社)日本ペストコントロール協会（PCO）会長、農学博士の平尾素一先生から、「感染症に関する話題・ノロウイルス、SFTS」と題して御講演をいただきました。平尾先生からは、ノロウイルスの一般的な性状や感染機序、また、排泄時の汚物の飛散実験の紹介では、特に和式トイレでの衣服への飛散・汚染が高いため、食品取扱い施設では洋式トイレが望ましいお話がありました。また、マダニが媒介する感染症で最近話題となった、SFTS（重症熱性血小板減少症）の紹介から、マダニの生活環、調査方法、山において腕や足を出さない服装などマダニから身を守る方法、さらに、ツツガムシ病、ライム病など衛生害虫が媒介する病気の説明があり、今更ながら、衛生害虫の防除対策が重要であると痛感しました。

講演Ⅱでは、国内のノロウイルスの第一人者で、(一社)新潟県環境衛生中央研究所理事、医学博士の西川眞先生から、「ウイルス感染症・知識に頼らず、生活実感で理解する」と題して御講演をいただきました。西川先生からは、ノロウイルス感染症の実践的な予防対策について、過去に発生した実際の事例などをもとに感染症の具体的な防ぎ方についての講演をいただきました。ノロウイルス感染症の流行の波、季節変動等各種統計を読み直すことにより、本当のところが見えてくる。季節で増減する理由として、ウイルスの性状だけではなく、新学期、夏休み等、人間の活動状況等が大きく影響しているなど、あらゆる角度からの分析が重要である。また、感染症は人と人の間の距離が長くても、その間に共通の「物」があると伝播の距離が短くなる。そして、トイレでの嘔吐後の清掃実験では、水道蛇口等手でよく触る箇所はきれいに清拭できていても、その他の箇所で汚れが残っていて、そこを介して汚れが広がっていくというお話をいただきました。さらに、予防マニュアルにガチガチにとらわれず、発生予防、再発防止のためのポイントを考えた行動が大切であるとのお話もいただきました。

衛生害虫の防除や感染症予防については、社会的にも注目されており、講習会終了後のアンケートにおいても、「基本が大切であることが理解できた」、「知見を広めることができた」、「職場での実践の参考になった」などの感想をいただき、次回の講習会にも参加したいという声が多く聞かれています。

来年度も、より拡充した内容での開催が期待されるところです。



平成 26 年度 学校飼育動物長岡地域公開講座を開催

平成 26 年 8 月 19 日 (火) 新潟県動物愛護センターにおいて、平成 26 年度学校飼育動物長岡地域公開講座が、新潟県教育委員会、長岡市教育委員会の後援で開催されました。

長岡市内の小学校教諭 25 名、長岡市教育委員会 2 名、県議会議員 1 名、獣医師 20 名、動物看護師 2 名、専門学校生 1 名、一般市民 1 名、合計 52 名と多くの方に参加していただきました。

文部科学省 初等中等教育局教育課程課 教科調査官 田村学先生から「これからの学校教育と動物飼育」について、学習指導要領の改訂を視野に入れてお話いただきました。

盛りだくさんの内容、そして吸い込まれるようなお話で参加者は聞き入っていました。これからの学校教育の変わっていく方向性と、動物飼育の可能性や課題について講演されました。

続いて、新潟市宮川動物病院院長 宮川保先生から「学校飼育動物の飼い方、接し方」についてお話いただきました。具体的な内容で、参加者からの質問が多く、特に委託契約による支援事業の実際のお話には活発な質問、意見が出されました。

また、普段は会う機会の少ない小学校の先生方と獣医師との場が設けられ、活発な意見交換がおこなわれました。



開会挨拶 長岡市教育委員会 加藤教育長



講演される 田村 学 先生



講演される 宮川 保 先生



受講風景

小動物臨床部会 第2回講習会・動物看護師セミナーの開催

平成26年10月19日(日)新潟東映ホテルにおいて、平成26年度小動物臨床部会第2回講習会および動物看護師セミナーが開催されました。

講習会は獣医師セミナーとして『繁殖学「いまさら聞けない獣医繁殖学」～知っておこう！こんな病気～アップデート』を部会長でもあります小島動物病院アニマルウェルネスセンター院長の小嶋佳彦先生に、動物看護師セミナーとして『獣医公衆衛生学「伴侶動物が関わる人と動物の共通感染症」』を日本大学 生物資源科学部 獣医学科 獣医公衆衛生学研究室教授の丸山総一先生にご講演いただきました。講演はそれぞれ別フロアにおいて同時進行で行われました。参加登録者は獣医師が48名(部会員39名、部会員外9名)、動物看護師が56名、当日参加者は獣医師が38名(部会員29名、部会員外9名)、動物看護師が55名でした。

獣医師セミナーの開始前には、日本政策金融公庫新潟支店 石田雄一郎課長様より日本政策金融公庫のご案内を、宮川保副会長より福島被災ペット譲渡依頼についてお話頂いた後、小嶋佳彦先生の講演に入りました。講演内容は繁殖生理学から始まり、人工授精、不妊治療、雌雄の生殖器疾患、分娩および帝王切開と基礎から応用まで幅広いもので、臨床家ならではのお話でとても勉強になりました。

動物看護師セミナーでは、人と動物の共通感染症の総論、犬、猫から感染する疾病、エキゾチックアニマルから感染する疾病、消毒法について、身近な疾病である猫引っかき病などから狂犬病まで詳しく丸山総一先生よりお話いただき、皆熱心に聞き入っていました。

またこれまで行ってきた動物看護師(職)についてのアンケート調査結果を小嶋部会長、鈴木副部長から報告をしました。今回もアンケート調査を行いましたので、これら一連のアンケート調査結果については、小嶋部会長が新潟県獣医師会小動物臨床部会からの報告として、学会発表する予定です。今後も小動物臨床部会の事業にご協力をお願いいたします。



(第2回講習会) 講演される小嶋佳彦先生



(第2回講習会) 受講の様子



(動物看護師セミナー) 講演される 丸山総一先生



(動物看護師セミナー) 受講の様子

平成26年度 野生傷病鳥獣保護収容事業関係者研修会 「県民公開講座」を開催

平成26年11月2日（日）午後1時30分から新潟ユニゾンプラザで野生傷病鳥獣保護収容事業関係者研修会が公開講座として開催され、一般県民（野鳥愛護会会員含む）及び動物病院開業獣医師等の24名の方から参加をいただきました。

主催者として、当会楠原会長理事の開会挨拶に続き、後援者の新潟県県民生活・環境部環境企画課 長谷川課長補佐からご挨拶をいただいた。

研修会（公開講座）の講師は、新潟地域振興局林業振興課 布川耕市課長で「私の出会った野生動物たち」と題して講演をいただきました。

講演では、先生がその自然に魅了され移住した胎内市の奥胎内、県職員として長年にわたり勤務した村上市（旧朝日村）の新潟県森林研究所周辺に生息する「ニホンカモシカ」、「ツキノワグマ」、「ニホンザル」、「キツネ」、「リス」等の生態について多数の貴重な写真とともに紹介された。外来生物による生態系に係る被害を防止し、生物多様性の保全のためには、ペット飼育も含めた適正な飼育方法が必要となることを強調された。

また、「カモシカ」と出会った時に写真を撮るには、音を立てずに『阿波踊り（男踊り）』をすると3m位は接近可能でシャッターチャンス。《「カモシカ」の視力は劣るが音に敏感。》というウイットに富んだ解説をされた。

講演終了後に先生の主要研究課題の「松くい虫」についての質問に詳細な解説をいただき、盛会裏に公開講座が終了した。



講演される 布川耕市 先生



受講の様子

平成 26 年度狂犬病予防注射業務関係者研修会を開催

平成 26 年度狂犬病予防注射業務関係者研修会が 11 月 19 日（水）新潟県自治会館講堂において関係者 177 名が出席して開催された。

主催者として、公益社団法人新潟県獣医師会 楠原征治会長理事、共催者として、新潟県福祉保健部 藤田伸一生活衛生課長から開会の挨拶があり講演に入った。

行政説明では、生活衛生課の阿部久司 動物愛護・衛生係長が狂犬病の発生状況について、発症すれば神経症状を呈し 100%死亡し発症後の有効な治療法はないこと、潜伏期は 1～3 ヶ月程度で毎年全世界における死亡者数は、約 55,000 人（10 分に 1 人の割合で死亡）でその多くはアジア及びアフリカ地域が占める。又、人の狂犬病の原因は 99%が犬からの感染（咬傷）であること。犬の登録及び狂犬病予防注射接種状況について、平成 25 年度の県全体の注射接種率は、92.8%であるが地域別でみると郡部では高く、都市部（新潟市）で低い接種率であった。最後に県の取り組みとして①県民に対する普及啓発、②犬を譲渡した飼育者への普及啓発、③動物取扱業者に対する指導、④湾岸地域における犬の管理の徹底について詳細な説明をされた。

続いて、県獣医師会事務局から市町村担当者に対して①平成 27 年度狂犬病定期集合予防注射料金改定（2,550 円から 2,650 円への値上げ）、②狂犬病予防業務関係事務委託手数料についてご理解と前向きな検討をお願いした。

続いて、狂犬病臨床研究会 理事 沼田一三 先生から「あらためて考える狂犬病対策の必要性」と題してご講演をいただきました。

狂犬病の歴史と概要から入り、感染経路は感染した動物の咬傷からウイルスが侵入し⇒末梢神経を 15mm/日の速度で上昇⇒脳に到達し増殖して発症に至る。よって、咬傷部位により発症までの時間が異なるが何れにしても脳に到達し増殖する前に暴露後ワクチン接種で抗体価を上げることが重要となること、又、なぜアジア及びアフリカ地域で死亡者数が多く占める理由として貧困（暴露後ワクチン接種ができない）も一因と考えられる。次に台湾での狂犬病発生事例では、“イタチアナグマ”が 276 頭、その他で犬（イタチアナグマに咬まれた生後 45 日の子犬 1 頭が陽性、その後安楽死処分）が確認された。しかし、他の野生動物（“タヌキ”、“ハクビシン”等）に陽性が出ないのか？ 又、出ないとすればその理由は？が現時点では解明されていないこと。台湾株は、中国での流行株とは異なっており遺伝子解析の結果で 3 つの系統（中部、南部、東部）に分かれている。このことは、数十年以上前から“イタチアナグマ”による狂犬病が流行していたと推察される。更に、台湾での狂犬病発生事例を教訓に日本国内でも地道な野生動物の疾病モニタリング調査が必要であること。狂犬病対策と動物愛護の関係では、動物愛護面が強調される傾向にあるが動物由来感染症（狂犬病対策を含む）の対策強化により動物の健康と安全保持にもつながり、その結果として『ヒトと動物の共生』が確立されることを解説し、県・市町村・獣医師会の三者が各々の役割を的確に果たすことの必要性を強調された。



研修会の様子

小動物臨床部会第3回講習会の開催

平成27年1月11日（日）万代シルバーホテルで平成26年度第3回講習会を開催しました。

小嶋佳彦部会長の挨拶とアンケート結果報告の後、鈴木正芳副部会長の司会進行で講演に入りました。講師は、麻布大学獣医学部 外科学第二研究室の齋藤弥代子准教授で、神経病学「動画で学ぶ神経疾患」と題して講演をいただきました。

今回は獣医師と動物看護職の合同講習会で、参加者は獣医師が47名、動物看護職が28名の合計75名でした。

講演内容は、日常の診療において遭遇することのある様々な神経疾患について、タイトルの通り動画をたくさん取り入れたもので、解説もとてもわかりやすく、参加者はみな熱心に聴講していました。

心配された雪や風の影響もなく、無事開催できました。



受講風景



講演される齋藤弥代子先生